

不治の病と言われるリウマチが
快方へ向かわれている方の手記

「夫婦で松本医院の治療を受けて
(リウマチ途中経過)」 有保 ミチ子 63歳

2009年10月6日

先日、4回目の診察に松本医院に行ってきました。(2010年9月29日)
最近では、一日も早くこの手記が書けることを願って毎日を過ごして来たように思います。

さて、昨年冬から春にかけて、花粉症体質の私は、プールから帰ると、鼻水がいっぱい出て、両方の鼻がふさがれ、一晩中眠れないのです。風邪も引き易くなっていました。そのうちに、ペットボトルの蓋が開けられなくなったり、ボールペンが握れなくなったり、丁度その頃、英会話の勉強を始めて、スペルを良く書いていたので腱鞘炎かなと軽く考えていました。次に足の裏が痛くなり、階段の上り下りがスムーズに行かなくなったりしていました。もともと足裏は魚の目が出来ていたもので、そのせいかと皮膚科へ行って削ってもらいました。しかし、未だ変な感じなので整形外科へ行ってレントゲンを取ったのですが、異常無しでした。

私はインターネットをよく見ている方なので、その頃はリウマチの事は少し分かっていました。そして数日後の朝、右小指の第2関節がプクッと赤く腫れて痛くて目が覚めました。急いでリウマチではないかと整形外科へ行って血液検査をしたところ、プラス1、陽性と出ました。むしろリウマチとはっきりした事で今までの身体の不調の原因がわかってホッとしたのでした。そして、現代は医学が進んでいるのでどんな病気も治ってしまうものだと思い込んでいました。先生に今後どうしたらよいのか尋ねると、3ヵ月後に再度、血液検査をして様子を見ましょうとのこと。ところが、知人や周りの人にリウマチにかかったことを話すと、車椅子生活をしているとか、手足の指が曲がって大変な人がいるとか、リウマチで何年も入院しているとか、それはそれは大変な話ばかり聞かされました。毎日朝から晩までインターネットでリウマチについて検索しました。こちらも悲惨なページばかりで、「とんでもない病気にかかってしまったものだ。だけど、落ち着け！落ち着け！」と自分に言い聞かせて、インターネットを一生懸命検索していくと、赤い字で書いてある、何か不思議なホ

ホームページに辿り着きました。「リウマチは完治する、ステロイドは使わない」患者の皆さんの手記を朝から晩までパソコンの前に座りっぱなしで読み漁りました。私は、8年前、婦人科で膣炎のときステロイドを服用した後、脱ステの経験があります。この時は顔中ボツボツで真っ赤になり（アトピーだったのかも）主人に言わせると“お岩さん”みたいに気持ち悪かったそうです。それ以来、ステロイドにはかなり神経質になっておりました。先生の理論は難しいのですが、何度も何度も読んで、納得出来たのです。いざという時にはここしかないと感じたのでした。整形外科でリウマチの陽性反応が出たのが、5月23日です。6月10日から自分で足の裏にお灸をし始めました。そして待ちに待った7月1日に松本医院へ診察に行きました。遠路はるばる行くものですから心細く、又、主人も時々、手足の関節が痛むと言っておりましたので、一緒に診察してもらいました。血液検査の結果、主人は間質性肺炎だと言われました。初めて耳にする病名、これも同じリウマチの一種だと分かりました。夫婦でお世話になるとは本当に松本先生にはご縁があるのかもかもしれません。これまで何度も松本医院のホームページは見ていましたので、先生にお会いしたときは初対面のような気がしませんでした。一般のお医者さんと違って、気さくでとても気遣いのある、こんな人が日本にもいたのだと、心温まる思いで帰ってきました。7月5日から治療を開始し、初めて漢方を飲んだ時は全身血が駆け巡っているような、凄いと感じたこと日記に書いてあります。2週間位で足の浮腫みが大分引き、つま先立ちができ、7月13日からアトピーが出始め、8月16日頃からお腹に派手にアトピーが出てきました。その後小指、膝、肩が痛かったり、目が痒かったり、色々少しずつ症状が出てきました。しかし、これまで凄いリバンドも無く、普段の生活、ストレッチ、プールや家庭菜園も中断する事も無く続けられました。むしろ身体を動かした方が良かったように思います。皆さんの手記を読みながら、自分の症状の軽さに感謝しながら、畑で動いたりしていました。以前は少し張り切りすぎると、足が腫れたり、痛みも出たものですが、最近ではそれも前より少なくなったようです。ストレスで自分自身のステロイドホルモンを出さないように常に“禅定の心”を保ちたいと思います。免疫力を高める治療法に巡り会って、リウマチになる前の身体より、今のほうが遥かに身体全体が健康的になり、しっかりと生きてきているように感じます。主人も最近では、殆ど、関節が痛む事は無いそうですが、湿疹は派手によく出るようです。今は、100歳まで生かされる時代ですし、二人の息子たちは、若い時から、米国で学び、米国で働き、結婚し、時々帰国することはあっても、当分は戻っては来ない由、当てに出来ません。ですから、私達の健康は、自分たち二人で守るしかないのです。そのためには、今後も、食生活を徹底し、水泳や、ウォーキングで身体を鍛え、頭を使い、しっかりと生きて行かねばと、思っている次第です。世間では不治の病と言われているこのリウマチを自分で告白しなければ、誰も気付かないほど楽に治療が出来ていることに、松本先生には感謝の気持ちで一杯です。松本理論を理解することで病気に対する恐さが

払拭され、(以前は“無知無明”の為、いたずらに恐がっていました。)そして埼玉県に在住のため、なかなか大阪まで診察に行くことが出来ず、先生にはいろいろご配慮を頂き、本当に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

今後とも何卒、よろしく願いいたします。